

11月16日(火)

さようなら(平和と共に去る)

聖書朗読 ヨハネ16:25~33

わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。 ヨハネ16:33

指導者たちはイエスを殺すことを計画していました(ヨハネ11:53~54)。イエスは、そういうことをご存じであるにも関わらず、「勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」と話されたのです。ご自分が殺されるということをはっきりとご存知でした。そんな状況で、私たちはどのように振舞えますか。

ご自分が殺されることをご存知だったイエスはどのようにしたかといえば、淡々と平和を語り、ご自分に従ってきた人たちに平和を与え続けました。

イエスは園に行き、わたしの願いではなく、父の御心がなされますようにと祈りました。イエスは、辱めの裁判への道を歩かされましたが、神様への信頼を持ち続けました。十字架上で、自分を十字架につけた者たちを赦して欲しいと父に願いました。死の瞬間にイエスは御父の手にご自分を委ねました。こういう行動を取れる人というのはどういう人なのでしょう。それは、平和を知っている人です。

最後に、平和とは偶然の産物ではありませんし、私たちが作り出したり、コントロールできるものでもありません。平和とは、「世に勝ち」そして平和を私たちにくださる方に従うことです。

讃美歌 平和、川のように

祈り 父よ。あなたにある平和を知る必要があります！忙しい最中であっても、この世のために平和を作る神様の御用をすることができますように。

イエス様のお名前を通してお祈りいたします。アーメン。

アラバマ州 オペリカ

ブルース・グリーン

11月17日(水)

全てをご存知だったイエス様

聖書朗読 ヨハネ18:1~18

人がその友のためにいのちを捨てるといふ、これよりも大きな愛は誰も持っていません。 ヨハネ15:13

母親が何ヶ月も大変な思いをし、最後には新しい命を生み出すために非常な苦しさを味わうとわかっているのに、母親になりたいと願うのは大きな愛が要ります。そして、もう一人子供を産みたいと思うのはより大きな愛が要ります。寝不足やひたすら続くオムツ替えなどをすでに経験し、母になるというのはどういうことかをよくわかっているからです。もう一度同じことを経験することをも厭わないというのは、愛でしかありません。

マタイの福音書の20章22節でイエスがヤコブとヨハネに「私が飲もうとしている杯を飲むことができますか」と質問します。そして、ヤコブとヨハネは「できます」と即答しました。その時は、ヤコブとヨハネはイエス様に即答はしましたが、何に對して「できます」と言ったのは分かっていたのです。しかしヨハネの福音書18章(マタイの26章)で、イエスが裏切り者に会うために歩き出した時、ヨハネはイエスが「私が飲もうとしている杯を飲むことができますか」の意味が分かったのです。つまり、イエスはヨハネたちを救うために十字架につけられるということでした。イエスは、ご自分の友人たちからまもなく見捨てられるのご存知でした。また、ムチ打たれ辱められ中傷され拷問を受け、考えられる中で最も卑しい死に方をするとご存知でした。それなくしては、私たちが救うことはお出来にならなかったからです。イエス様はそのむごい十字架上で死が起ることを全ての人に伝えました。何のために？それは、私たちが救うためです。イエス様の偉大な私たちへの愛ゆえです。それこそが愛なのです！

聖歌 456

祈り 父なる神様。あなた様の愛は本当に計りしれません。ご自身の愛を見せることを止めることもなく、愛のみ腕に抱いてくださいます。私を愛して下さってありがとうございます。

あなたが私を愛するように、私もあなたを愛することができますように。アーメン。

ノースキャロライナ州 スイスビル

ドリュー・ベイカー

11月18日(木)

愛がイエスを十字架につけた

ヨハネ18:28~32

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ヨハネ3:16

ヨハネ3章16節は、イエス様を十字架に送ったのは愛であったと思い出させてくれます。ユダヤの指導者ではなく、総督ピラトではなく、イエス様を連れて行ったローマの兵隊ではないのです。彼らはイエス様の死に関わりましたが、根本的な要因ではありませんでした。それはイエス様のあなたへのそして私への愛でした。その愛がイエス様を十字架へと導いたのです。

イエス様は私たちが何か良いことをしたから命を捨ててくださったのではありません。全くその反対でした。ローマ書5章7節から8節でパウロが説明しています。「正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。」

私たちが神様のことを思い関心を持つはるか前から、イエス様を私たちの身代わりとして十字架に送るほど神様は私たちのことを考え関心を持っていてくださいました。そのような愛を私たちが完璧に理解することは不可能でしょう。神様が私たちにくださったこの贈り物を従順な信仰を持って受け入れるかどうかは私たちにかかってくるのです。

讃美歌 136

祈り 親愛なるお父様。私たちは、あなたとひとり子イエス様が十字架上で示してくださった偉大な愛を完全に理解することはできません。謙遜にあなたの御心に従い、あなたが私たちにくださった素晴らしい贈り物を実感することができますように。

イエス様のお名前でお祈りいたします。アーメン。

フィリップ・エイクマン
サウスキャロライナ州 アーモン

11月19日(金)

併 存

聖書朗読 ヨハネ18:28~30

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。
ヘブル12:2

「ほろ苦い」という感情には、二つの感情が入っています。例えば、古いアルバムの中の今は亡き愛する人の写真を見て、会えない寂しさを感じると同時に一緒に過ごした時間の喜びを感じます。また、笑いが悲しみになるときもあり、嬉しいのか悲しいのかわからない状況になることもあります。自分が育てた子どもが成長し結婚する時も2つの感情が混じり合います。

私はディパーションの時間に、あのような拷問の苦痛や言葉にできないほどの残酷さや公衆の面前での辱めに耐えた十字架上のイエス様を見ます。被造物全てが彼に反抗したのに何故耐えることができたのでしょうか。そして、私は「耐える」以上の何かがあったことに気がつきます。後にくる喜びのために彼は「辱めをものともせず」にいたのです。愛と痛みが同時に存在していました。

このことは、私たちが「ほろ苦い」経験をするとき助けになると思います。私たちは問題のある世界に生きていますが、それを克服できる者です。私たちの信仰は苦難を味わうものになるかもしれませんが、義の冠が私たちを待ち受けています。私たちは、確かに日々霊が新しくされていくのですが、体は痛みを経験し衰えていきます。私たちはこの世では受け入れられないかもしれませんが、次の世では歓迎されることを知っています。イエス様は忍耐され愛されました。そして、それは私たちにとって究極的な模範なのです。

讃美歌 144

祈り 親愛なる神様。お父様。あなた様には私たちのことを思う義理も責任もありませんでした。しかし、父であるあなた様は与える方であり、ご自分のひとり子を私たちのために死なせてくださいました。私のために！

主なるイエス様、ありがとうございます。アーメン。

ボブ・マイズ
テキサス州 ラボック

11月20日(土)

釣り名人のイエス様

聖書朗読 ヨハネ21:1~14

わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎが来ます。

マタイ11:29

私たちはイエス様の御足の跡を歩むべきであると誰もが知っています。現実の日々の生活においてそれはどういう意味でしょうか。ペテロの人生では少なくとも2度それが起こりました。新しい方法で釣りをすることでした。ペテロはプロの漁師でした。イエス様は釣りについてどれほどの知識があったのでしょうか。すべてのものはこの方によって造られ(ヨハネ1:3)、万物は御子によって造られ(コロサイ1:16)と書いてありますから、イエス様が釣りを知らなかったということはありません。

私は大学で教えていますが、学生たちがイエスを親切で愛深くて賢い人と捉えているのを興味深く思っています。彼らは、イエスを研究分野などにおける知識があるとは認識していません。それは大人たちも同じなのです。「イエス様は私の仕事や人生を知っているはずがない」自分をペテロの立場に当てはめてみてください。最初にイエス様がペテロに網を投げるようにおっしゃった時、ペテロは不満を述べました。「私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことばですので、網を下ろしてみましよう。」(ルカ5:5) イエス様は釣りについてどれほどの知識があったのでしょうか。全てです。水も魚も造られたのですから。

さて、イエス様はあなたの人生の何をご存知でしょうか。全てです。全てのは彼によって造られたのです。ですから、いつも意識してあなたの人生のすべての時を彼と一緒に歩きなさい。

聖歌 588

祈り 親愛なる神様。イエス様の命をいただいたことを十分に感謝する言葉がありません。私たちを愛し、私たちを造られ、私たちがあなた様の所に帰るのを導くために、あなたの永遠のことばが肉となってくださいました。毎日、最期の時までイエス様と意識して歩むように導いてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アール・D・ラベンダー
テネシー州 ブレントウッド

11月21日(日)

大いなる困惑

聖書朗読 使徒4:1~10

たとい義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。

I ペテロ3:14

サドカイ派の指導者たちは、大いに困惑しました。ペテロとヨハネがイエス様の復活を民衆に話していたからです。その教えは、影響力の強いサドカイ派の指導者たちの教えに反するものであり 彼らの権威に楯突くものでした。そういうわけで、ペテロとヨハネは翌日まで牢に入れられました。キリスト者への迫害が始まりました。ヨハネ15章20節でイエス様はこう述べておられます。「人々がわたしを迫害したならば、あなたがたも迫害します。」

私たちが福音を分かち合う時、拒否されたり 仲間はずれにされたりするリスクが伴います。牢に投げ込まれる日が来るかもしれません！イエス様に従っていくことは、私たちがはみ出し者扱いされる可能性があるということです。地球上の地域によっては、これらのことに加えて「死」さえも日常的にあることなのです。そして、そのことが私たちの住む地域に及ばないという保証はありません。

私たちは快適な暮らしをするような使命を受けているわけではありません。または、気楽な暮らしをするように召されているわけではありません。私たちはイエス様の信仰的な証し人となるように召されています。混沌とした世の中でサドカイ派の指導者がペテロとヨハネの教えに困惑したように、人々は私たちがイエス様のみことばを語り、そのみことばに生きる姿を見る時、困惑するかもしれません。しかし、ペテロとヨハネのように、聖霊に満たしていただき、偉大な愛なるイエス様ご自身のことを大胆に語りましょう。

讃美歌 II 80

祈り ああ、愛なる父でおられ、神聖なる兵士であられる方よ。行ってあらゆる国の人々をイエス様の弟子にするように助けてください。まず自分がいるところから始めることができますように。困難なところでもあなたに従うことができますように。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

ダナ・メリネス
テキサス州 ビクトリア